

令和6年度 第2回 学校運営協議会議事録

- 1 日 時 令和7年2月5日(水) 午前9時30分から11時まで
- 2 会 場 静岡県立池新田高等学校内 小会議室
- 3 参加者 運営委員 木下 裕義 様 中部電力株式会社 浜岡原子力発電所 総務部長
水野 浩三 様 JA遠州夢咲農業組合 監査室 室長
漢人 隆弥 様 御前崎市スポーツ協会事務局長
河田 裕子 様 掛川特別支援学校御前崎分校 PTA 会長
※漢人様は書面参加
学校職員 校長 副校長(進行) 高等部主事 教務課長(記録)

4 内 容

(1)校長挨拶

お忙しい中、御参加ありがとうございます。本日は2回目となり、今年度の反省になりますが、忌憚のない意見をお願いします。

(2)校内参観(作業学習参観)

農園芸班(ミーティング風景)、革工芸班、手工芸班を参観した。

各班の生徒が作業製品や作業工程などの説明をしたあと、委員の方から質問が挙がり、生徒が答えるという場面が見られた。

(3)学校評価及び次年度に向けて

今年度の学校教育活動より

校訓 『元気 笑顔 夢の実現』

教育目標 『いきいき学び 地域とともに よりよく生きる人を育てる』

学校教育目標の中に、『地域とともに』とあるが、大産業まつりでは、販売場所の割り当てや革工芸の方の紹介など委員の方に便宜を図っていただいた。また、委員の方を通じて作業学習へ定期的に専門家を派遣していただいた。このように地域に支えられて19年目になる。

学校評価

ア 専門性

個別の指導計画は生徒一人ずつ目標を立てて実践している。評価の結果については、教職員、生徒、保護者のアンケートから数値を参出している。生徒アンケートに関しては、担任が読み上げ、個別に支援しているため、信ぴょう性の高いものとして評価を採用している。

(ア)学習指導要領を踏まえ「主体的・対話的で深い学び」のある授業実践を通じた実践力と専門性のレベルアップ

- ・年間指導計画の視点や方法を定着させ、より生徒の実態に即した目標設定を目指していく。
- ・生徒の目指す姿について、定期的に学部研修で検討したため、目指す姿に迫るための有効な支援や手立てを考えることができた。

(イ) 学校体制で取り組むカリキュラムマネジメントと「いきいき学び 地域と 共に よりよく生きる人」を育てる授業づくりの推進

- ・ 働く力の土台には健康管理や日常生活の管理があることを再認識し、生徒の日々の生活を振り返り、改善する気づきとなった。
- ・ 生徒の個々の実態に応じた作業日誌を活用することができた。

(ウ) 心理的安定性の確保と月 45 時間以内を目指した働き方改革の推進

- ・ 授業の担当人数や優先業務に対する空き時間の確保など学年内で調整できた。学年間でも把握できるように他学年の動静を把握しておくことにより。

<委員より>

A 委員 A B評価を合わせて 100%ならば達成でよいのでないか。B評価は厳しいような気がする。先生方にとっては骨の折れる仕事だと思う。おおむね達成できたということは、何か努力しているところがあるのではないか、何ができればよいかが見えなかった。

学校) 教師が目標設定を見誤った（見取りの難しさ）、見切れなかったという自身の反省があるのではないかと分析する。

B 委員 年次休暇取得の日数は規定があるのか。

校長) 1 年間で最大 40 日。20 日間ずつ追加されていく。インフルエンザは特別休暇が取得できる。また、年次休暇のほかに、家族休暇も取得できる。年次休暇は、理由を聞く必要がないので、理由や都合により休暇を使い分けている。
ウの心理的安定性とは「ワークライフバランス」と「会議の時に自由に発言できる環境」の二つの意味がある。休暇取得はワークライフバランスであり、年齢や経験の差を考えずに議論できることが環境設定を意図している。

B委員 当社は5日間が義務になっている。

校長) 学校は、5日間の夏季休暇の取得があり、さらに3日間の休暇取得促進日の設定がある。

B委員 先生方は休めていないのではないか。

校長) 日々、授業が終わった 15 時以降に授業準備を行う。授業準備にもいろいろある。生徒指導の相談が入ることもあるので、16：45 に帰ることはできないが、若い人がやりがいを持つためには業務の精選は必要と考えている

A委員 当社は数値化しているが、繁忙期が部署によって違うため、みんなが達成できるとは言えない。仕事の段取り、配置、分担の見直しを行っている。これを平地化と言っている。心理的安定については、自分の弱みをさらけ出し、何を言っても大丈夫という環境、雰囲気を作らなければいけない。人間的な関係構築をしていか

なければいけない。

副校長） 学校も組織の在り方、ミドルリーダーの役割が重要と言われているが、何か工夫しているところがあれば教えていただきたい。

B委員） 若い人は、課長職、部長職はやりたくないと言っている。ハラスメントもあるので、気を遣う。

副校長） 上司から部下へ歩み寄ることが必要だと思う。

C委員） 学校に満足している。先生方は一人一人の生徒と向き合っている。

◎評価 専門性に関する6項目は、学校がつけたとおりの評価でよいかの問いには、委員の方の了承を得ることができた。

イ 安全・安心

(ア) 生徒が安全に安心して生活できる教育環境の整備及び事故等の未然防止への行動力と有事への対応力の向上

- ・ 毎月の安全点検の際に掲示板へ留意点を掲載し、点検ポイントを絞ったことが学習環境の安全性を高めた。
- ・ マニュアルの一部差替えは実施したが、改訂ポイントや有事の際の役割分担などの説明は不足していた。
- ・ 生徒は避難訓練の積み重ねにより、地震の際の1次避難が定着していた。

(イ) 教職員、生徒の人権意識を向上し、他者も自分も大切に作る心の醸成

- ・ 今まで身に付けてきた方法や分校で教員から教わった方法など情緒面では50項目、体調面では43項目が実践内容として遷都アンケートに記述されていた。
- ・ 学期1回のチェックシートと月1回の不祥事根絶研修（県のコンプライアンス通信含む）での話により、危機意識の持続に努めた。
- ・ 生徒アンケートに記述のあった生徒への個別面談を実施したが、いじめに該当する対人関係のもつれは認められなかった。夏季休業中に生徒指導案件は1件発生した。

<委員より>

B委員） 情報機器の紛失について報道等でも告げていたが、分校の場合はPC、タブレットの管理はどうしているのか。

副校長） 日番が戸締り点検の際に、PCタブレットの数をすべて数えて確認をしている。生徒が持ち出せる環境設定のため、毎日台数の確認をしている。時々、使用後に生徒の机の中に入っていたこともあるが、数が不足していた際には全職員で捜索するようにしている。つい最近、生徒が誤って持ち帰ったことがあるが、すぐに電話連絡の上家庭訪問し、回収をした。個人情報が入っていないことと学校のWi-Fi環境でないと使用できないようにセキュリティ管理をしている。情報機器を校外に持ち出す際には管理職に届け出ている。

A委員） 「自分自身の気持ち、体調を知る」の項目についてB評価になっているので概ねよいと思うが、学校での取り組みを教えてほしい。

高等部主事) 健康チェック表に気持ちのバロメーターがあり、それをツールに担任と生徒とやり取りしている。養教とも連携している。生徒がどのようにしたらよいかを生徒が考えるようにしている。

A委員) 授業の様子を参観してみて、先生方と生徒さんは良い関係だと思った。

副校長) 養教、担任、特別支援コーディネーターと連携し、複数で見ていくようにしている。顔を見て声をかけ、初期の発見を大事にしている。

危機管理について

B委員) 業務上、個人情報の流出には気を付けている。無通知で他店を訪問し、机の上などに個人情報がないかチェックしている

A委員) いろいろな事例を社内に発信し、マニュアル作って終わりではなく、それら情報を活用して訓練などしている

SNS…詐欺にあわない訓練等、意識を高める訓練をしている。

安全安心について

副校長) 学校では自分の身を守る学習を反復して行っているが、例えば自主通学の際に災害があった場合はどうするか、家庭で話題になっているか。

C委員) 家庭では、あまり話をしていない。バスで行っているので、目的地に着くのが当たり前だと思っていたが、これからは危機管理をしていかなければと思った。

副校長) 最近では通り魔事件も多く発生しているので、登下校の安全も考えていきたい。

◎**安全・安心** 安全・安心に関する6項目は、学校がつけたとおりの評価でよいかの問いには、委員の方の了承を得ることができた。

ウ 連 携

(ア) よりよく生きる人を目指した学校と家庭、地域・関係機関等との協働強化

- ・ 対人関係に苦手意識のある生徒はいるが、生徒の評価はA評価が7割を超えている。
- ・ 事前打合せにおいて学習目的や生徒の実態を中心に話し合うことにより、生徒の思考に沿った授業を展開することができた。

(イ) 地域資源(人・もの・こと)への深い理解とそれを活かした実践や発信

- ・ ホームページについては、週1回の定期的な情報発信をした。保護者には週予定やコクーを使って適時性のある情報を発信した。
- ・ 御前崎市をはじめとする地域の関係機関との連携は特別支援教育コーディネーターを通じて極めて良好である。

<委員より>

副校長) 当分校は今年で19年目になるが、いまだに池新田高校御前崎分校という方もいる。地域としての認知(理解)はどうか。

B委員) 申し訳ないが、委員になる前は分校の存在を知らなかった。

副校長) 地域として根付くためにどうすればよいか

A委員) 産業まつりもアピールになっていると思う。

副校長) 池新田高校も共生・共育を売りにして宣伝していくとよいと思う。

連携(進路)について

C委員) 進路に関して、1年生の時に進路の情報をもっとほしい。

副校長) 次年度に改善していきたい。

地域について

A委員) 地域資源を生かしたという点では、地域に積極的に出ていくことが大事だと思う。

副校長) 今年度も大産業まつりについて御尽力をいただいた。

◎**評価について** 連携に関する5項目は、学校がつけたとおりの評価でよいかの問いには、委員の方の了承を得ることができた。

全体をととして 特になし

次年度に向けて 本年度はコンプライアンスに関して問題は起きていないが、次年度も引き続き十分配慮はしていきたい。

最後に

校長) 地域にもっと発信していくことが大事である。教育課程の中で行事を中心として販売会等で発信しているが、アナウンス力、人に理解してもらうこと等、地域人材を利用して高めていくことが必要だと思う。

掃除など社会に貢献できることや役に立てること等、アピールをし、知ってもらうことが課題になっているので、次年度の課題として考えていきたい。

閉会